

(社)日本水難救済会 坂本理事長 スウェーデン・イギリス歴訪

国際救命艇連盟（ILF）は、当会の第

一世界海難救助会議

二代会長 伯爵 吉井幸蔵氏の提案により、

一九二四年（大正一三年）に設立された海

難救助に従事するボランティア機関の集ま

りで、(社)日本水難救済会を始めとする六一カ

国、八七団体が加盟（一〇〇三年現在）し、

これまで主に海難救助技術等に関する情報

交換の場としての活動を展開してきたとこ

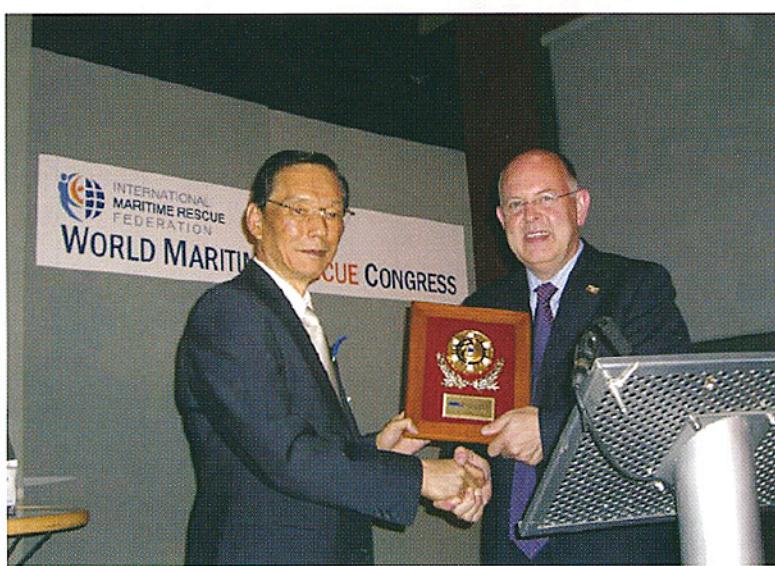
ろです。

この度、構成員を政府機関や航空SAR
関係まで拡大のうえ「国際海難救助連盟（I
M R F）」として組織を再編のうえ、救助要
員の教育・訓練プロジェクトの実施、海難
救助に関するワークショッピングの開催、発展
途上国に対する技術支援などといった総合
的な施策を推進し、世界的な規模での救助
能力のレベルアップが図られることとなり、
本年六月七、八日に、第一回総会がスウェー
デンのヨーテボリ市において開催されまし
た。

国際海難救助連盟の総会開催に併せ、六
月四（月）～八日（金）に、世界の海難救
助機関や資器材メーカーなどが参加する世

界海難救助会議（W M R C）が開催され、
約三〇カ国、一一〇団体から約四〇〇人が
出席しました。

同会議に当会の坂本理事長が出席し、四
日に行われた開会式において、スウェーデ
ン海難救助協会最高責任者、I M O事務局



長、中国交通部副大臣に続き祝辞を述べました。

また、五日には、海上保安庁の救難課・中園国際救難係長が、日本の海上救急制度について、プレゼンテーションを行いました。

二 国際海難救助連盟総会

六月七日（木）と八日（金）に、国際海難救助連盟（IMRF）の設立総会が開催されました。今回設立された同連盟の会員は、二五カ国、三五団体です。

同連盟事務局から、連盟の前身である国際救命艇協会（ILF）からの改組する背景、経緯についての説明、次期評議員の選出、各種フォーラムの開催等が行われました。

次回の総会は二〇一一年に開催されることがあります。

三 英国王立救命艇協会訪問

坂本理事長は、国際海難救助連盟の総会終了後、英国王立救命艇協会（RNLI）を訪問し、同協会の最高責任者アンドリュー

フリードマン氏等と意見交換や施設の視察を行いました。

同協会の年間予算は約三一二億円で、全て寄附金で貯められています。寄附金収集の方法など、当会の今後の活動に大いに参考となる有意義な訪問となりました。

